

（ 名取北 ） 高等学校 全（定）

研修先	<p>※視察した高校名・学科等を記入してください。</p> <p>山形県立米沢東高等学校 栃木県立烏山高等学校</p>
研修内容	<p>※具体的な研修内容を記入してください。</p> <p>総合的な探究の時間の具体的な実践例を中心に、本校と同等の学力を有する学校を視察し、「i-Seeプロジェクト」や「烏山学」をとおして生徒の「やる気」を引き出す取組みや、教職員の対応について今後の参考とする。</p> <p style="text-align: center;">（別紙資料添付）</p>
学校づくりに 向けた具体の 取組案	<p>※自主研修を踏まえ、特色ある学校づくりに、向けた具体の取組案等を記入してください。</p> <p>（1） 探究活動のための準備機関設置と準備期間設定</p> <p>① 視察から、教職員・生徒をリードするために、準備に相当な時間と知恵を要し、運用時に求められる諸対応が可能な余裕が必要だと考えられる。</p> <p>② 管理職・教務・進路・学年主任・情報・司書教諭・地域連携教員など、随時求められる判断や運用に、柔軟かつ迅速に関わることができる人員構成が望ましい。また中心となるプロジェクトリーダーには諸対応に時間と手間をかけられる余裕を要する。</p> <p>③ 約1年間の準備期間（大学・地域との連携、内地留学も含む）や、約3年間の運用期間（柔軟な検討・変更を繰り返す）など、試行錯誤ができる時間的なゆとりも必要である。</p> <p>（2） 教職員の共通認識構築</p> <p>① 希望進路多様の本校が生徒を導く上での核は何か。特に管理職を中心とした教職員の共通認識の深まりが、特色を創出すると考えられる。</p> <p>② 例えば探究活動で、米沢東の進学型「分野別探究学習」を目指すか、烏山の地域連携型「体験型探究活動」を目指すかの方向性は本校実態と将来像の議論の深まりから見出されるものと考えられる。</p> <p>（3） 名取北型探究活動</p> <p>① 原案として我々が推すのは米沢東型である。本校生徒の居住区が多様である観点から烏山型地域連携よりは、分野別ゼミの方が、受動的な学習態度になりがちな本校生徒の学習意欲向上を見込めると考えられる。</p> <p>② 7年間という実践の歴史から、参考となる要旨集や課題探究ノートなども充実している。</p> <p>③ 各教員は自分の得意とする分野・テーマでゼミを開講し、受け持った約20人のゼミ生の主体的な学びに助言・指導を行うのである。</p>

(例: $280 \text{人} \div 20 \text{人} = 14 \text{人}$ → 1学年14人の担副が1人1ゼミを担当)

④ 希望進路多様であり、目標が異なるからこそ、学び方も様々であることを発見する機会になると考えられる。

(4) 運用のための時間創出(生徒の「やる気」を引き出し、伸ばしきるためにも)

① 本校の実態は、生徒も教員も教育課程内の教科・科目をこなすことに追われている傾向がある。

② 多様な希望進路を聴き取り、導き、探究活動のような個人の学びを尊重するためには、個人と対話する時間を充実させたい。(視察校では年5～6回の個人面談の機会を設けている)

③ しかしながら視察した学校と比べて、授業の持ち時数の割合が多い本校では、その時間確保が難しい。

(視察校: 10～14時間+LHR+総合/35時間, 本校: 15～17+LHRor 総合/32時間)

④ 持ち時数や教育課程, 日課表の再編, 単位制の検討, 教員数増などの施策により, 高校教員の専門的教養のスキルが発揮され, 個人や探究への対応を可能とする時間が創出されると良いと考える。